

## 巻 頭 言

### 「2007年度活動を振り返って」

東京大学大学院准教授、CAUA 運営委員長

斎藤 馨

偽装に沸いた2007年でしたが、お互いの顔が見えにくくなるからこそ情報通信技術に求められる要求や期待は益々大きくなるように感じられます。大学を含む教育関係機関において情報センターや図書情報システムのサービス向上や、情報システムを使った教育研究の機会は増えているなか、安全で確実で、そしてオープンなシステム構築と運用には、ユーザ相互の情報交換と情報システムを支える様々な企業の協力が必要です。CAUAの活動は教育現場における情報化のための情報交換の場として、2007年度も以下の活動を行いました。

6月のCAUA FORUM 2007は、2006年10月に開催して反響の大きかった「情報センターと図書館の融合の行方」の続編第2部とし「～組織統合・サービス統合の先にあるもの～」を掲げて開催しました。慶応義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構教授 福原美三様から基調講演「高等教育オープンコンテンツの潮流 ～組織融合・コンテンツ融合の発展～」と題して、オープンコースウェアの概念と経緯の解説と、教育コンテンツにおける世界と我が国で今まさに起こっている融合について、理想・現実・著作権など具体的なお話をいただきました。これを受けて「大学における情報サービスと組織の融合の現時解を探る」では武蔵大学情報メディアセンター事務長 小野成志様のコーディネイトにより、図書館、情報センター、教育の現場のリーダーの方をパネリストに迎え、融合の現時点での最適解について熱い議論がなされました。その後意見交換会が開催され、有意義なフォーラムとなりました。

11月には、CAUA第6回合同研究分科会「～Look WEST: ICTは西に学ぶ～」を開催しました。基調講演には、センター運用分科会では京都大学教授 岡部寿男様より「大学間連携のための全国共同電子認証基盤 (UPKI) の現状と今後」、教育研究分科会では奈良先端科学技術大学院大学教授 砂原秀樹様より「実務型セキュリティ人材育成プログラム」を頂きました。その後図書館分科会とCTC事例発表とを会場を分けて開催しました。大学が抱える各種の問題点に対して先端的な取り組みを紹介した内容となり、その後の情報交換会では多くの方にご参加いただき、有意義に懇親と情報交換を行うことが出来ました。

12月の地方に展開するCAUA活動は、林会長が全国で展開してきた「地域情報化シンポジウム」を締めくくべく北海道札幌において「NORTH-CAUA共同開催シンポジウム ICTで実現する元気な北海道! ～北海道の地域情報化の現状と今後～」と題し、NPO法人NORTHとの共同開催により100名を越える規模で開催しました。基調講演には札幌医科大学教授 辰巳治之様に「地域情報化で、なにが変わる? なにを変えたい?」と題し、予防医療におけるユビキタスネットワークの活用を中心に幅広い話題について講演を頂き、これを受けて「北海道の元気の素～様々な取組みの紹介～」では麗澤大学教授 林英輔 CAUA会長のコーディネイトのもと、北海道における地域情報化や遠隔医療などの具体的な事例を交えたパネルディスカッションを行いました。その後の懇親会も多数の参加いただき、夜遅くまで熱心な議論が続いておりました。

以上のようにCAUAはICTに関わるホットで多彩な話題を取り上げて活動をしています。CAUAの主要な活動であるフォーラムやシンポジウムに是非一度ご参加くださいますようお願いを申し上げます。そして2008年度もご期待下さい。